

『進化する高専』

近藤 祐史

香川高等専門学校

東日本大震災において被害を受けられた方々に謹んでお見舞い申し上げます。

高等専門学校（高専）は、平成 24 年に高専制度創設 50 周年を迎えます。タイトルは、50 周年を向かえさらなる飛躍に向けての統一キャッチフレーズなのだそうです。

高専は、中学卒業後の 5 年間の教育を行っています。学生たちは、中学生という若年で 5 年間通う学校を選択し、高等学校とくらべると忙しい毎日を送っています。高専の学生達が活躍する場としては、高専間で行っている、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、高専体育大会などのほか、多くのコンテスト等があります。

勉学の方でも学生は忙しく、5 年間空きの無い時間割で、取得できなくても良い授業は、総計で 10 単位分くらいしかありません。単位の換算時間も大学と異なっています。当初、高専の設置基準で規定されていた高専の単位は、家庭での学習時間を含まない 30 時間の授業をもって 1 単位とする履修単位でした。しかし、設置基準が変更され、大学と同等の 45 時間（家庭学習時間も含む）をもって 1 単位とする学修単位を導入できることになりました。

また、高専は、平成 3 年より専攻科を設置できるようになり、卒業後の 2 年間の教育を行っています。大学卒業と同年になります。高専の専攻科に行く最大のメリットは、学費です。学費は高専の本科と同額なので、国立大学の半分弱です。専攻科では、学修単位が採用され、大学と同等の教育がなされています。しかし、大学と大きく違うのは、学士の学位が高専からは出せない点です。専攻科を修了する学生が、学士を得るためには、大学評価・学位授与機構の試験を受け、合格する必要があります。合格すれば、学士の学位が学位授与機構から授与されます。専攻科の学生は最後に厳しい試練が待っているのです。

教員も大変で、独立行政法人化した際に、大学教員には認められた裁量労働制が認められず、国立高専では変形労働時間制をとっています。そんな中、教育研究の他に学級担任、部活動の顧問としての指導・引率、学寮の宿直指導などの業務をこなしています。

それでも、高専制度創設 50 周年を機にさらなる飛躍に向け、創造力と実践力、イノベーションの創出、地域連携、国際交流を視野に入れ、科学技術創造立国の一躍を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者を育成しつつ、文化の香り高い豊かな社会の発展を目指していくんだそうです。